

神奈川県大和市

③1 文化創造拠点シリウス (公民館・図書館)

施設HPアドレス

<http://yamato-bunka.jp/>

<ポイント>

- ・オープン後4か月半で累計来館者数が100万人を超え、賑わいの空間、地区の活性化等、新たな価値を生み出している。
- ・各施設の特徴を活かしながら、共通テーマのもと、各施設が事業を実施し、施設全体を盛り上げている。

施設概要

- 複合施設 (床面積) / 22,904㎡
 - ・大和市生涯学習センター (2,953㎡)
 - ・大和市立図書館 (6,560㎡)
 - ・やまと芸術文化ホール (8,269㎡)
 - ・大和市屋内こども広場 (911㎡)
 - ・大和連絡所ほか (4,211㎡)
- 複合化前の総床面積 / 9,117.32㎡ (※図書館・学習センターのみ)
- 整備時期 / 平成 28 年
- 構造 / 地上6階 地下1階 鉄骨鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造)
- 総工費 / 147 億円 (保留床取得額)



生涯学習センター (公民館)、図書館、芸術文化ホール、屋内こども広場を融合した、新しいタイプの文化複合施設

施設整備の背景

- ・大和市の中心に位置する大和駅の東側地区は、駅至近の好立地であるものの、店舗の閉鎖、低・未利用地や老朽化した建物が目立つことから、魅力ある街づくりが望まれ、再開発を進めるエリアとしていた。
- ・ホール機能を兼ね備えた生涯学習センターや図書館は、老朽化が著しく、それに伴う機能不足が否めず、文化施設の水準が非常に低い状況であった。
- ・そこで、これらの課題、市民の利便性を向上させるだけでなく、高齢社会に対応した街づくりを進めるべく、再開発事業計画を見直し、公共施設 (ホール、図書館、学習センター、屋内こども広場など) を整備することとした。

管理・運営の体制

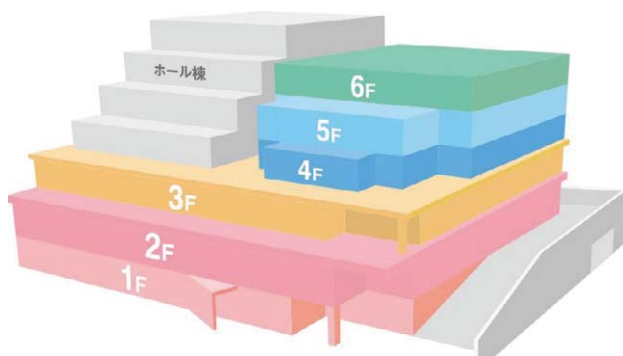
施設	利用時間	所管	管理・運営
公民館	9:00 ~ 21:30	教育委員会	指定管理者
図書室	9:00 ~ 21:00	教育委員会	
ホール	9:00 ~ 22:00	市長部局	
屋内子ども広場	9:00 ~ 19:00	市長部局	
連絡所	8:30 ~ 17:00	市長部局	直営

※上記の利用時間は、平日の利用時間で、エリアによって違うところもある。

施設の配置・動線

- ・文化創造拠点シリウスは、東棟と西棟で構成されている。東棟（ホール棟）は、メインホール、西棟は、生涯学習センター、図書館、サブホール、ギャラリー、屋内こども広場、連絡所が配置されている。
- ・生涯学習センターは、市民交流ラウンジ（2階）、スタジオ（3階）、会議室、講習会及び市民交流スペース（6階）で構成されている。
- ・図書館は、こども図書館（3階）、健康都市図書館（4階）、調べて学ぶ図書館（5階）、さらに、1階から2階にも閲覧席の設置、図書の配架を行い、施設のどこでも本が読める環境を整えている。
- ・芸術文化ホールのサブホールとギャラリーは1階に配置されている。
- ・住民票の交付や市税の証明書等を発行する連絡所は2階、屋内こども広場は3階に配置されている。

<配置図>

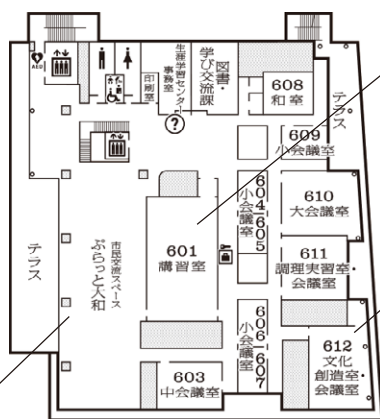


- 6F 生涯学習センター
- 5F 調べて学ぶ図書館
- 4F 健康都市図書館
- 3F 屋内こども広場、こども図書館、スタジオ
- 2F 市民交流ラウンジ、連絡所ほか
- 1F メインホール、サブホール、ギャラリー、カフェほか

平面計画上の特徴

6F

「生涯学習センター」



防音設備を完備しており、各種講演会や楽器演奏会などに利用が可能。



各種会議室は、ガラス張りで、開放感のある明るい部屋。



大和駅周辺を眺望できる飲食も可能な自由に利用できる交流空間。

5F

「調べて学ぶ 図書館」



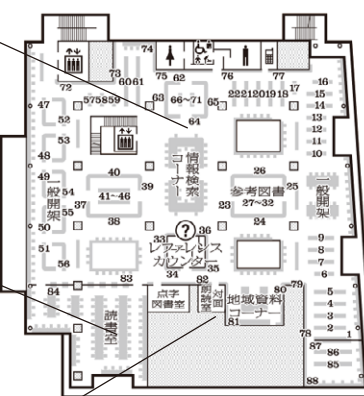
本に囲まれた空間づくりに配慮している。



77席の読書室 静かな環境で読書ができる。



大和市や神奈川県内市町村に関する歴史資料等がある。

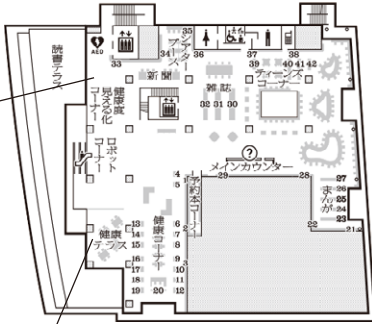


4F

「健康都市 図書館」



電動血圧計、
脳年齢測定器
などの測定器
を自由に使うこ
とができ、気軽
に健康チェック
が行える。



健康コーナーには、健康に関
する図書を配架しています。ま
た健康テラスでは、健康に関
する講座等を実施している。

3F

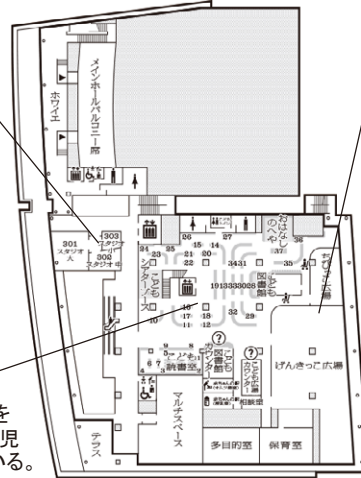
「こども 図書館」
〔屋内こども広場〕
〔スタジオ〕



大・中・小の3
つのスタジオ。



絵本や紙芝居を
はじめ、様々な児
童書が揃っている。



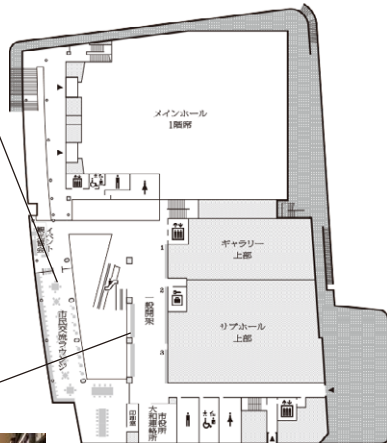
知育玩具
メーカープロ
デュースの
遊具がある。

2F

「市民交流のフロア」



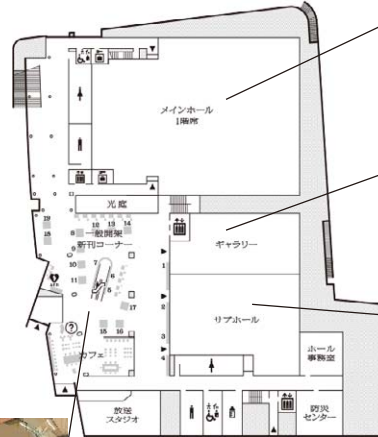
上質で快適な
家具が揃ったく
つろぎの空間。



通路の壁を効果的に活用し、多くの
書架や閲覧席を確保している。

1F

「芸術文化ホール」
「ギャラリー」



館内のどこでも本に親しめるよう、エ
ントランスにも書架や閲覧席を設け
ている。



高い音響設備を
備えている。
座席数：1,007席



可動式パネルを
備えている。



小規模の演奏会や
ダンス・演劇などに
適したホール。座席
数：272席

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
住民の意見の取り入れ・反映	○ 民間の力の活用（PFI など）
管理運営の工夫	その他

【相互利用・交流活動】

学習センター、図書館、ホール、屋内こども広場を融合させ文化創造拠点として整備したことにより、施設の効率的な活用及び利用者の交流の幅が広がっている。

<各施設の融合>

各施設の特徴を活かしながら、単独で運営するだけでなく、共通したテーマのもと、各施設がテーマに合った事業を行うことで1つの大きな形として施設全体を盛り上げるなど、複合施設であることを最大限に活用している。

<図書館の本の活用>

図書館の本は、館内のどこでも持出しが可能で、図書館の閲覧席にとらわれず、生涯学習センターの市民交流スペースをはじめ、館内のカフェなどで自由に閲覧することが可能。

<図書館に配置した健康に関する測定器の活用>

4階の健康都市図書館には、健康に関する図書を配架するほか、電動血圧計などの健康をチェックするための測定機器の設置、さらに健康や食事、運動などに関する相談やアドバイスも受けられる。

<屋内こども広場の活用>

屋内こども広場は、3階のこども図書館に併設されており、本を通して子供たちの知力を高めるだけでなく、天候を気にせず遊べる空間で体力を養うことも可能。さらに、親子の交流の場であるとともに、こども同士、親同士の交流の場としても機能している。

<生涯学習センターの講習室の活用>

これまでは図書館で行っていた映画鑑賞会は、学習センターの防音完備の講習室で開催することにより、施設の効率的かつ効果的活用が図られている。

<生涯学習センターの市民交流スペースの活用>

6階の市民交流スペースは、来館者だれもが利用できる飲食可能な空間で、学習センターの用途に限らず、様々な利用者の交流の場所として賑わっている。

<エントランスの活用>

各施設へのアクセスは、すべて1階のエントランスを利用。エントランスに館内全施設の催し物などの情報を集約することで、利用者が館内の様子や機能を目にすることができることから、再び来館したいという意欲をもつきっかけとなっている。

H29.2のテーマは「愛」各施設「愛」を意識した事業を実施。



【コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり】

- ・大和駅の東側に文化創造拠点シリウスが平成28年11月3日にオープンし、オープン後わずか4か月半で来館者は100万人を超え、店舗の閉鎖、低・未利用地や老朽化した建物が目立っていたこの地区は、活気づき、新たな価値を生み出している。
- ・シリウスの中には、年齢を問わず多くの方が来館されており、にぎわいの空間となっている。
- ・大和駅周辺にできたこの新しいコミュニティの拠点を中心として、本市の街づくり、市民交流などがますます活性化していくことが期待される。

【民間の力の活用】

- ・文化創造拠点シリウスの管理・運営には、民間企業のノウハウを活用すべく、指定管理者制度を活用している。
- ・当該施設は、学習センター、図書館、芸術文化ホール、屋内こども広場という大きく分けて4つの機能が融合した施設のため、1つの企業だけで対応することが困難であることから、それぞれの分野に長けた6社で構成する共同企業体で運営されている。
- ・新しいスタイルの公共施設であるため、まだ見えていない利点や課題などもあると思われるので、この融合施設の今後の活用について、指定管理者のさらなる工夫が期待される。

富山県中新川郡舟橋村

③2 舟橋村立図書館

施設HPアドレス

http://www.vill.funahashi.toyama.jp/facility_new/library.html

<ポイント>

- ・ 駅に併設したことにより、近隣在住の通勤・通学者が途中下車しての図書館利用や、パークアンドライド方式（南駐車場）の活用で、図書館の利用者とともに、駅の乗降者数も増えている。

施設概要

- 複合施設（床面積） / 1,518.91㎡
 - ・ 舟橋図書館（1,419.44㎡）
 - ・ 駅舎など（99.47㎡）
- 複合化前の総床面積 / 67㎡
- 整備時期 / 平成 10 年
- 構造 / RC 造・地上 3 階
- 総工費 / 6.9 億円
- 主な財源 / 補助金・村債・一般財源



図書館外観

施設整備の背景

- ・ 図書館の新設計画
- ・ 富山地方鉄道 越中舟橋駅舎の老朽化と乗降者数の減少
- ・ 魅力あるまちづくり計画による駅舎および附属施設のシンボライズ化

管理・運営の体制

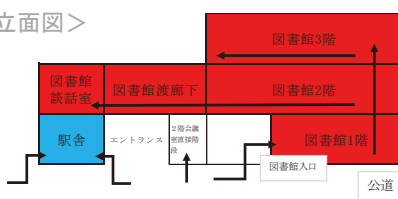
施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
図書室	10:00～19:00 (夏期間 平日)	教育委員会	教育委員会	4	0
駅舎	5:00～23:00	富山地方鉄道	富山地方鉄道	1	1

施設の配置・動線

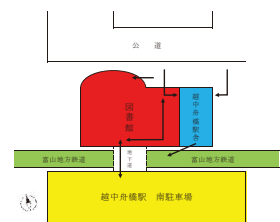
<ポイント>

- ・ エントランスの東西に駅舎・図書館の入口がある。
- ・ エントランスの南側に村営駐車場につながる地下道がある（パークアンドライド）。
- ・ エントランスの階段で直接 2 階会議室に入れる。

<立面図>



<配置図>



平面計画上の特徴

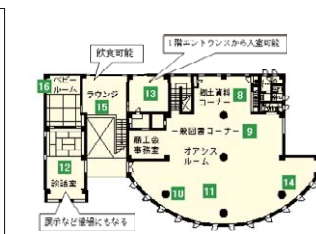
<ポイント>

- ・ 図書館 1 階を主に児童図書、2 階を一般図書としている。
- ・ 靴を脱いで入館する。
- ・ 2 階のラウンジでは飲食ができる。
- ・ ベビールーム・談話室を設けている。
- ・ エントランスから直接 2 階会議室に入れる。

- 1 階（おもに児童図書）**
- 1 受付コーナー
 - 2 絵本コーナー
 - 3 児童図書コーナー
 - 4 マンガコーナー
 - 5 ビデオCD コーナー
 - 6 ビデオ視聴
 - 7 リスニングコーナー
 - 8 コンピューター
 - 9 インターネットコーナー



- 2 階（おもに一般図書）**
- 8 郷土資料コーナー
 - 9 一般図書コーナー
 - 10 ブラウジングコーナー
 - 11 雑誌コーナー
 - 12 談話室
 - 13 会議室
 - 14 閲覧コーナー
 - 15 ラウンジ
 - 16 ベビールーム



- 3 階**
- 17 書庫
 - 18 整理室



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・ 図書館登録者数
(17,931人(村内2,586人 村外15,345人 平成28年2月現在))の増加。
- ・ 村民一人あたりの貸出数67冊で日本一(平成11年)。
- ・ 滞在型による村内外問わない利用者相互の交流場所。
- ・ 社会教育の拠点として、イベントスペースによる社会教育事業の開催。
- ・ 越中舟橋駅の1日あたりの乗降人数の増加
(平成5年419人 平成23年569人)。

【課題】

- ・ 施設設備の維持管理。
- ・ 駅利用者へのマナー周知。
- ・ 富山地方鉄道との共同事業が実現できていない。

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
住民の意見の取り入れ・反映	民間の力の活用(PFIなど)
管理運営の工夫	その他

【駅併設】

- ・ 越中舟橋駅に併設したことにより、富山地方鉄道を利用している近隣在住の通勤・通学者が途中下車し、図書館を利用している。また、パークアンドライド方式(南駐車場)を活用できるため、越中舟橋駅の乗降者数が増えるとともに、図書館の利用も増えている。



駅プラットホーム側 図書館外観



舟橋駅南駐車場

【滞在型図書館】

- ・ 「くつろぎの空間」にすることを基本方針とし、滞在型図書館を目指している。靴を脱いで入館し、床に座ったまま本を読む。また、児童書やマンガを1階に配置することで、成人と子供のすみわけをしている。平成23年には飲食のできるラウンジ、ベビールームが併設され、より滞在型の魅力を出した。



床に座って本を読む



親子連れも、たくさん来館する

【社会教育の拠点】

- ・ 社会教育の拠点として、1階フロア・2階談話室などを利用し、定期的にイベントを行っている。図書館ボランティア・職員による「おはなし会」、音楽家による「お月見コンサート」、「郷土の歴史を探る講演会」、その他、社会教育団体の展示会を催しており、図書館事業以外に、村の社会教育推進に貢献している



おはなし会



お月見コンサート

地域住民・利用者等の声

- ・ 村の玄関口として、賑わいが出た。
- ・ 通勤の帰りや、待ち時間に本を借りることができて、大変便利である。
- ・ 小さな子供を連れてきても、ゆっくり本が選べ、床に座って本を読むので、1日滞在できる。

福井県大飯郡おおい町

③③ おおい町里山文化交流センター

施設HPアドレス

http://townohi-lib.jp/?page_id=19

<ポイント>

- ・住民により、施設の利用目的、機能などを検討し、首長に提言し、基本設計に反映。
- ・住民参加のワークショップで運営や使い方を話し合い、その参加者から運営をサポートするボランティア団体が誕生。

施設概要

- 複合施設（床面積）／
 - ・名田庄公民館（2,625㎡）
 - ・名田庄図書館（854㎡）
- 整備時期／平成22年
- 構造／鉄骨造・地上3階
- 総工費／12億円
- 主な財源／電源立地地域対策交付金



おおい町里山文化交流センター

施設整備の背景

既存施設は老朽化が著しく、また、施設機能も十分でなかった為、住民の文化・生涯学習活動を支援し、さらに充実させることを目的に整備。

施設の構想段階より、住民の意見を取り入れ、住民と共に検討を重ねた。

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
公民館 (ホール含む)	9:00～22:00	教育委員会	教育委員会	7 (兼務3)	
図書館	9:00～18:00	教育委員会	教育委員会	6 (兼務3)	

施設の配置・動線

<ポイント>

- ・ひとつの建物に図書館・公民館を配置。正面玄関を入り、右が図書館、左が公民館。中央は共有スペースのエントランスホール。
- ・目的があって図書館・公民館に来館するだけでなく、誰でもふらっと立ち寄り、気楽に過ごせるスペースを設けている。
- ・2階は、サークルやボランティア団体等のスペースとし、収納庫や会議室を設けている。

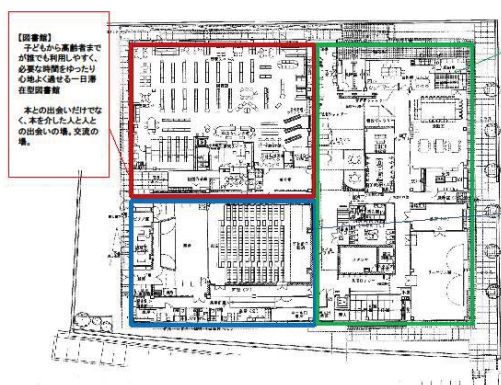
<配置図>



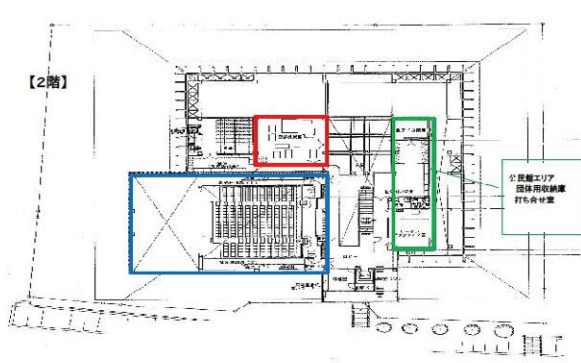
平面計画上的特徴

<ポイント>

- ・図書館・ホール・公民館（諸室）を1階に配置。これらの機能をつなぐ廊下（コミュニティストリート）は回遊でき、来館者が他の活動にも興味を持ちやすいよう工夫している。
- ・公民館の外に面した諸室は、イベント時にはオープンにすることでテラスと一体利用ができる。



- 【図書館】
子どもから高齢者までが幅広く利用し、ゆとりある空間を確保し、必要に応じて一日滞り滞在可能。
- 【公民館機能（共有エリアを含む）】
公民館事業、図書館事業・ホール事業の共有利用。誰でも気軽に立ち寄りやすく、居場所となるような空間を演出する。
- 【ホール機能】
可動床より2階。多目的に活用が可能。高層・リハーサル室（公民館エリア）を備える。



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・同一の建物に配置されていることの利便性と諸室の共用による有効活用。
- ・図書館・公民館が連携して事業を行うことで不足する部分を補う関係を構築している。
- ・公民館利用者が図書館へ立ち寄り、図書館利用者が公民館事業に興味を持つなど、利用者にとって、来館目的プラスαの出会いがある。

【課題】

- ・現在の職員体制で、人材の育成、確保に努めながら運営の専門性を高め、継続していくこと。
- ・今後の施設設備の更新について計画を策定する。

主な特徴

	集約化・複合化による相乗効果の発揮	○	コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
○	住民の意見の取り入れ・反映		民間の力の活用（PFI など）
	管理運営の工夫		その他

【住民の意見を取り入れた施設整備】

新たに整備する施設の構想について、住民の任意団体「施設建設を考える会」が、利用者の立場から、諸室の利用目的、用途、面積、機能などを検討し、「人づくり・地域づくり」の拠点施設として首長に提言。提言内容は、公民館（ホール機能を含む）、図書館の複合施設の基本設計に反映された。

その後、町から委嘱された協議会に引き継がれ、協議会の公民館部会、図書館部会において詳細を検討した。

また、住民参加のワークショップ「みんなで考える集い」を、行政と住民の共催で複数回開催し、新たな施設が役割を果たすよう、運営や使い方について話し合いを行った。ワークショップ参加者から、施設の運営をサポートするボランティア団体「サポーターズクラブ ぶらっと」が誕生し、現在は主に、ホール事業のスタッフとして活動している。



施設のあり方を考えるワークショップ「みんなで考える集い」

【ひとづくり・地域づくりの拠点施設を目指して】

里山文化交流センターは、誰でもふらっと集まれる気楽さ、使いやすさ、居心地の良さを提供する。

また、そこに行けばわかる、地域の情報拠点として機能を発揮する。

そして、「そこに行けば何かがある、誰かと会える、面白いことがある、何かが見つかる」と期待し、ひとが集まり、集まることで互いに刺激し合い、自分を発信する。発信することで、面白さが伝わり、ひとが繋がり、活動が広がっていく。」このような施設を目指している。



図書館での「レコードさろん」



図書館「おはなし会」のひとコマ



館内イベント「里山まつり」でのエントランスホールの様子



サークル活動の後は公民館カフェでひと息

地域住民・利用者等の声

- ・利用者である住民の意見を反映した諸室の設計は、使い勝手が良い。
- ・住民が施設整備の当初から何らかの形で関わったことで、施設に関心や愛着を持っている。

福井県今立郡池田町

③4 能楽の里文化交流会館

施設HPアドレス

<http://www.town.ikeda.fukui.jp/>

<ポイント>

- ・文化活動実施時に、図書館をすぐに利用できるなど、管内施設の副次利用を促すとともに、町民が集う場で町の伝統を伝えられるようにしている。

施設概要

- 複合施設（床面積）／3,339.74㎡
 - ・町立公民館（3,137.09㎡）
 - ・町立図書館（281.37㎡）
- 整備時期／平成7年
- 構造／RC造・地上3階
- 総工費／7.9億円（本体のみ）



施設整備の背景

能楽の里文化交流会館は、生活芸術の里づくりの拠点をテーマに平成7年に完成した。

メインホール、図書館、アトリウム、会議室などを備えた、芸術鑑賞から創作活動まで様々な文化活動の要望に応える生涯学習センターとなっている。

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営
公民館	8:30～17:00	教育委員会	教育委員会
図書館	10:00～17:00	教育委員会	教育委員会

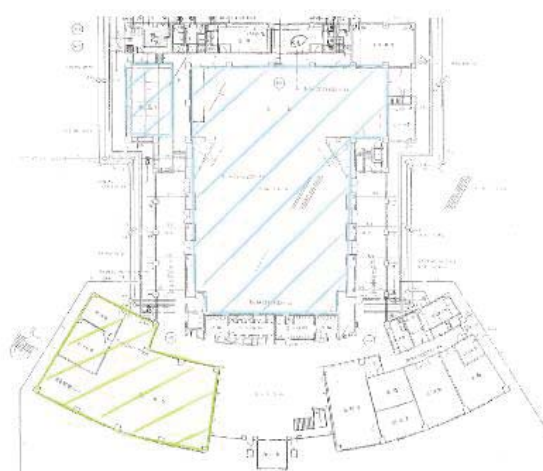
図書館は月曜休館。公民館利用時間は延長可能。

施設の配置・動線

<ポイント>

- ・アトリウムには田楽能舞がデザインされた陶板が設置され、伝統芸術を感じられる。ホール利用者や文化活動前後にも利用しやすいよう、アトリウム横に図書館がある。

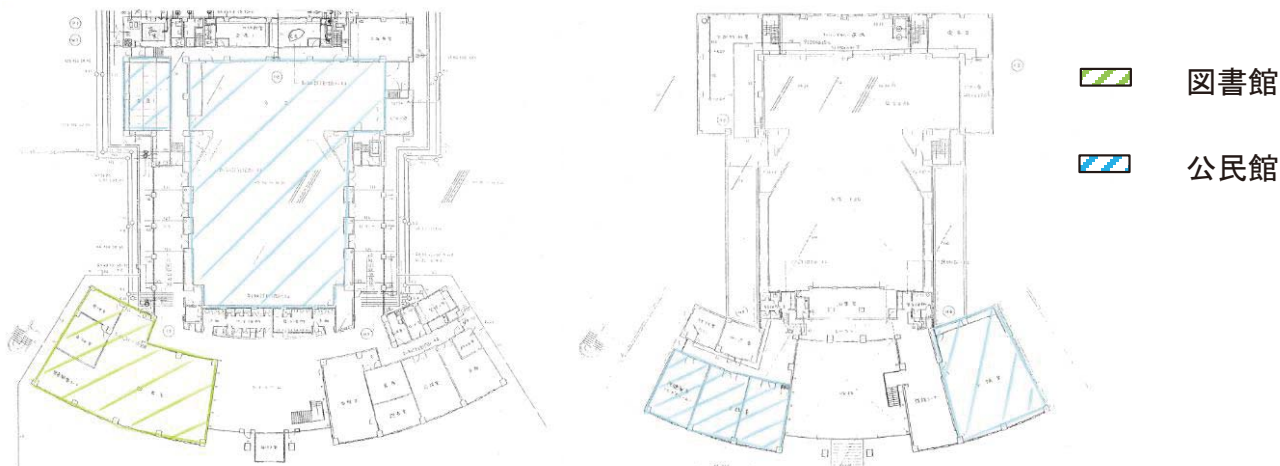
<配置図> 1階



平面計画上の特徴

<ポイント>

- ・1階には図書館と講演などで利用できるホールがある。ホール使用時には上演前や休憩に図書館をすぐに利用することができる。2階には、会議室などがあり、創作活動等の文化活動をおこなう拠点となっている。



主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
住民の意見の取り入れ・反映	民間の力の活用（PFI など）
管理運営の工夫	○ その他

【相互利用】

・館内施設の副次利用

文化活動実施時やホール使用時に図書館があることでの副次利用を促している。

また古文書等も保管しており、池田町の歴史について考える団体ができるといった文化活動の促進にもつながっている。

【伝統文化の継承】

池田町に古くから伝わる田楽能舞を意識したものになっている。アトリウムには田楽能舞の様子がデザインされた陶板が設置され、ホールでは特設能舞台を設置し、講演も行われる。

町民が集う場所で町の伝統が伝えられるような取り組みをおこなっている。



長野県塩尻市

③⑤ 塩尻市市民交流センター えんぱーく

施設HPアドレス

<http://enpark.info/>

<ポイント>

- ・受付を共用とするなどで部署間の壁をなくし、機能を融合することにより利用者の利便性を高めている。
- ・中心市街地の立地を生かし、周辺の商店街と連携事業を行うなどにぎわいを創出している。

施設概要

- 複合施設 (11,901.64㎡)
図書館 (3,286㎡) / 子育て支援センター (190㎡) / 貸館スペース (1,160㎡) / ふるさとハローワーク (93㎡) / 商工会議所 (343㎡)
- 整備時期 平成 22 年 7 月
- 地上 5 階、地下 1 階
- 構造 鋼板鉄筋コンクリート造 (1～3 階)
鉄骨造 (4～5 階)
鉄筋コンクリート造 (地下階)
- 総事業費 約 51.6 億円
うち国・県からの補助金 15.9 億円
地方債 18.9 億円



塩尻市市民交流センター えんぱーく

施設整備の背景

塩尻市では、中心市街地の活性化及び市立図書館の狭隘化が課題となる中で、平成 16 年に「市街地総合再生計画」及び「市街地再開発事業基本計画」を策定。平成 17 年に市議会の「中心市街地活性化対策特別委員会」において、「市民交流センター整備の基本方針」が了承され、また、市教育委員会では「塩尻市立図書館基本計画」が策定された。これらの計画は、塩尻市第 4 次総合計画に政策的に位置付けられ、市内の中心市街地に市民交流センターを建設する契機となった。

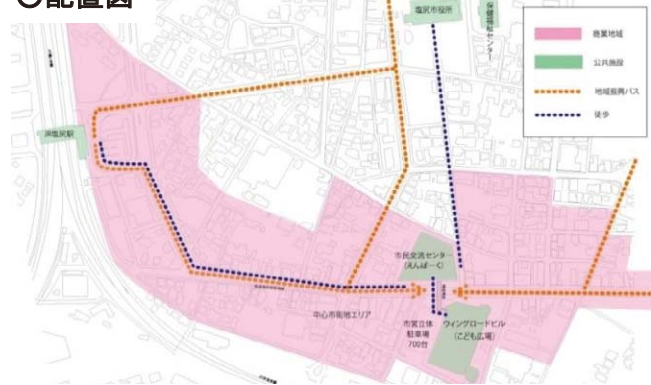
管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数
図書室	10:00～20:00	塩尻市	塩尻市	37
子育て支援センター	9:00～16:00	塩尻市	塩尻市	10
交流支援・まちづくり	9:00～22:00	塩尻市	塩尻市	14
市ブランド観光部門	8:30～17:15	塩尻市	塩尻市	14
ふるさとハローワーク	8:30～17:00	塩尻市	塩尻市	3
商工会議所	8:30～17:15	商工会議所	商工会議所	12
民間オフィス・ショップ	各店舗の時間	個々の店舗	個々の店舗	

施設の配置・動線

- ・塩尻市の中心市街地の中央部にあり、周辺商店街のにぎわいに創出を図る立地となっている。
- ・公共交通機関について、塩尻駅から徒歩約10分に位置し、また、市営駐車場（700台）も整備され、多くの来場者に対応することができる。
- ・各階の部署との連携がしやすい配置となっており、各機能を融合した利用ができるようになっている。

○配置図



○立面図



平面計画上的特徴

<ポイント>

- ・コンクリートの厚さ20cmの薄い板状の柱（壁柱）による構造となっており、各階のフロアは開放的で回遊性の高い設計になっている。
- ・幅の広い廊下のような共用スペース「市民サロン」などは間仕切りが少なく、多目的な利用が可能となっている。



1階

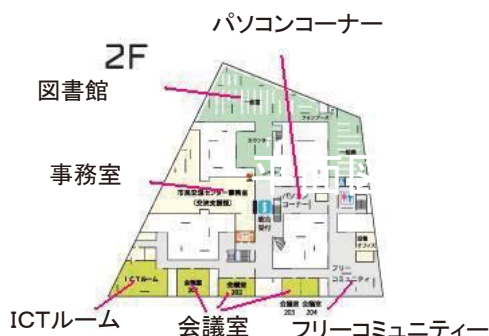
- 図書館
- 子育て支援センター
- エントランスホール
- 風の広場
- ショップ



1階は、図書館と子育て支援センターが中心的施設となっている。北側は一般書の書架、南側の明るい場所には、児童図書コーナーと子育て支援センターが配置され、南東の一角は、フリーマーケットやイベントが開催できる多目的広場のほか、飲食を提供するショップなどがある。

2階

- 図書館
- フリーコミュニティー
- ICTルーム
- 会議室
- 事務室



2階は、北側半分が図書館、南側半分が市民活動に使われるスペース。自由に使えるフリーコミュニティ、パソコンを設置したICTルーム、会議室、インターネットが利用できるパソコンコーナーなどが配置されている。吹き抜けの部分では、他の階の様子を眺めることができる。

3階

- 多目的ホール
- 会議室
- 学習室
- 食育室
- 音楽練習室
- 市民サロン
- 連絡通路



3階は、北側に155人収容の多目的ホールを設置。また、遮音された音楽練習室、調理台を備えた食育室、会議室、学習室を利用することができる。そのほかの部分は、壁の仕切りがなく広い廊下のようなスペースが市民サロンとして利用できる。連絡通路で市営駐車場と接続されている。

4階

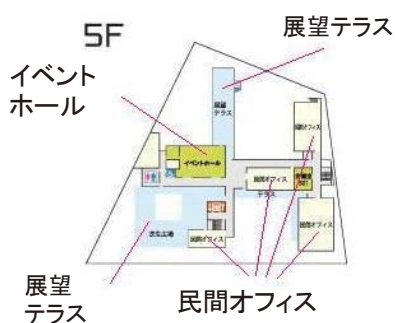
- 市ブランド観光部門
- 会議室
- 展望テラス
- 塩尻商工会議所
- ふるさとハローワーク
- 民間オフィス



4階には、市役所のブランド・観光部門が置かれるほか、塩尻商工会議所、ふるさとハローワークなどのビジネス関連の事務室が置かれ、民間オフィスも入居している。北側は、誰もが自由に使える屋上の展望テラスで、穂高連峰や美ヶ原・高ボッチ高原などの眺望を楽しむことができる。

5階

- イベントホール
- 展望テラス
- 民間オフィス



5階には、風景が楽しめる展望テラスやイベントホールのほか、民間オフィスが入居している。4つの吹き抜けの上部は、ガラス張りの大きな天窓があり、また、屋根には、屋上緑化が施され、自然の力を借りて断熱効果を上げることで、環境に配慮している。

複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・施設の複合化により、図書館をはじめ、子育てや青少年交流、シニア、ビジネス、市民活動に関する情報やサービスを提供する機能を持つため、さまざまな目的で利用する方の利便性を高めている。
- ・利用者は年間60万人を超え、10代、30代、60代が多く、幅広い年齢層の利用者構成となっている。
- ・この施設の周辺の商店街への影響についても、市の利用者動向のアンケート（H28年）の結果では、えんぱーく利用者の40.9パーセントの利用者が周辺商店街を利用する結果となっている。

【課題】

- ・市民がさらに利便性が高く、利用しやすい施設にするため、利用者のニーズを捉えた施設運営が必要である。とくに開館日、開館時間の拡大などについて、市民要望を調査することも必要である。
- ・えんぱーく周辺の商店街との連携や情報共有を強めた事業を実施し、周辺市街地への集客の増加を図る必要がある。
- ・複合化の利点を生かすため各部署の連携を図るためのネットワークの強化が必要である。

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
○ 住民の意見の取り入れ・反映	民間の力の活用（PFI など）
管理運営の工夫	その他

【機能融合による相互連携】

- ・子育て世代など利用者層が同じである子育て支援センターと図書館の児童コーナーは部署の壁をなくした共用の受付カウンターの設計となっている。
- ・図書館ではビジネス情報の提供を行い、ふるさとハローワーク、市商工会議所など隣接する部署と連携し、利用者に対し利便性の高いビジネス支援を行っている。
- ・市民交流センターの諸機能を融合させながら、市民及び市民公益活動団体等の自主的な活動を支援している。

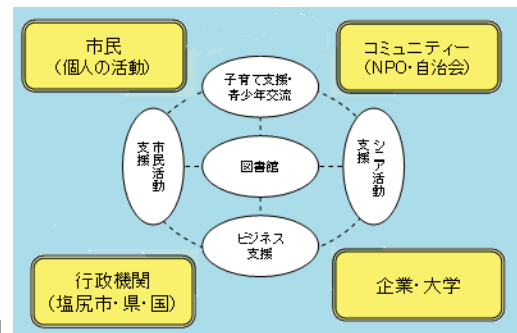
壁のない子育て支援センターと図書館の共用カウンター



【住民からの意見反映】

- ・平成 18 年度、市民会議（14 回）や市民ワークショップ（9 回）を開催し、施設の基本コンセプトについて、多くの市民の意見を反映し、センターの基本設計が策定された。
- ・住民の意見を取り入れた図書館をはじめ、子育てや青少年交流、シニア、ビジネス、市民活動に関する情報やサービスを提供する複合施設となり、それぞれの分野が連携した機能融合したサービスの提供が図られている。

えんぱーくの機能イメージ図



【コミュニティの拠点づくり、にぎわいづくり】

- ・市民による「えんぱーく」のサポート組織「えんぱーくらぶ」がボランティア活動や企画・協力事業を提案する活動を行っている。会員相互の仲間づくり・交流が図られ、地域を担う人づくりの場となっている。
- ・周辺の商店街との連携事業、市民のニーズの高い事業を開催することにより、施設利用者によるにぎわいを創出している。



「えんぱーくらぶ」による館内装飾



イベント「こどもアトリエタウン」

地域住民・利用者等の声

- ・市で実施した施設利用満足度アンケート集計結果（H 28）では①施設の清潔さ②館内設備③目的に応じたサービスについて、①～③の満足度は 80 パーセントを超えている。
- ・利用者の声でも「図書館や子育て支援センターなどのサービスにとっても満足しています。イベントもたくさん開催され、親子で楽しめるものが多いので有難いです」との評価を受けている。

岐阜県岐阜市

③6 みんなの森 りふメディアコスモス

施設HPアドレス

<http://g-mediacosmos.jp/>

<ポイント>

- ・集客力の高い施設を2階に配置し、動線の流れを工夫することによって、施設の相互利用を促進。
- ・複合施設の空調管理や施設警備、清掃などを一元化し、維持管理費等の経費を削減。

施設概要

- 複合施設（延床面積）／15,444.23㎡
 - ・岐阜市立中央図書館（約9,200㎡）
 - ・市民活動交流センター（約6,200㎡）
- 複合化前の総床面積／
 - ・旧市立図書館本館（約1,910㎡）
 - ・NPO・ボランティア協働センター（約80㎡）
- 完成時期／平成27年2月
- 構造／鉄筋コンクリート造、鉄骨造、木造・地上2階地下1階
- 総工費／約77億円
- 主な財源／社会資本整備総合交付金、市債、基金等



みんなの森 りふメディアコスモス 外観正面

施設整備の背景

- ・旧市立図書館本館の老朽化に伴い、岐阜大学医学部等跡地を利用し、複合施設として整備。

管理・運営の体制

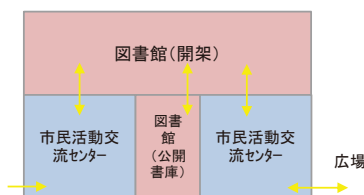
施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
岐阜市立中央図書館	9:00～20:00	教育委員会	直営	74	47
市民活動交流センター	9:00～21:00	市長部局	直営	33	31

施設の配置・動線

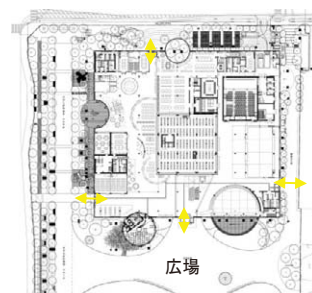
<ポイント>

- ・施設の入口は東西南北に配置されているが、図書館は2Fに配置されており、図書館利用者の動線は1Fの市民活動交流センターを必ず通過することになるため、施設の相互利用につながっている。

<立面図>



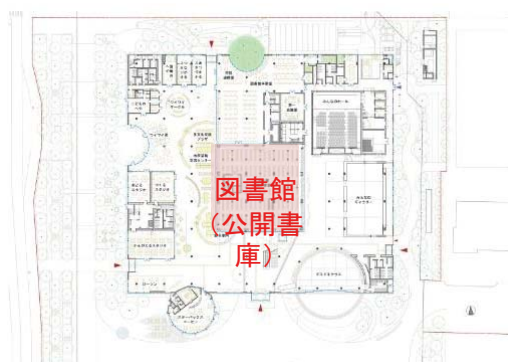
<配置図>



平面計画上の特徴

<ポイント>

- ・1Fから2Fへの動線は、1F中央南の階段及びエスカレーター、エレベーターの利用のみ。
- ・1F図書館（公開書庫）への動線は、2F中央のエレベーター及び階段からとなっている。



1F



2F

複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・集客力の高い図書館機能と、市民活動やボランティアなどの中間支援機能、さらに市民活動の発表の場となる展示室やホールを複合化することで、新たな活動の広がりがみられる。
- ・市民活動交流センターが行う自主事業に合わせて、図書館で関連図書の紹介を行うなど、事業連携により相乗効果を高めている。
- ・複合する施設の空調管理や施設警備、清掃などを一元化することにより、維持管理費や人件費等の経費を削減している。

【課題】

- ・市民活動の発表の場として、オープンスペースでの講演会や演奏会等も開催されることから、図書館利用者に対する音響への配慮が必要となっている。
- ・図書館は教育委員会、市民活動交流センターは市長部局でそれぞれ所管しており、定期的な調整会議を実施しているものの、情報共有や合意形成に時間を要する場合がある。

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
○ 住民の意見の取り入れ・反映	民間の力の活用（PFI など）
管理運営の工夫	その他

【相互利用・にぎわいづくり】

- ・市民活動交流センターでは、市民のボランティア組織である「メディコスクラブ」を立ち上げ、市民自ら施設を利用した賑わいの創出のための企画を実施している。施設が主催する年4回の自主事業のうち、春と秋にはメディコスクラブを中心に事業を展開する。
- ・図書館においても図書整理や読み聞かせ、図書館、本に関する活動を企画、運営するボランティアや、子ども司書が活動している。複合施設の特性を活かし、様々な世代の人々が出会い、市民が主体的に参画できる場と機会づくりを多発させ、人に付帯する生活情報を多面的に提供していく。

【住民からの意見反映】

<目的> 設計段階からの市民参画

- ・H22.7～8 基本計画（案）のパブリックコメント実施（意見提出数 219 通）
- ・H23.6～7 設計者による地元小学校の児童を対象にした特別授業の開催（計2回）
- ・H26.4 市民ワークショップによる施設の理念及びキャッチフレーズの提案及び決定・公表
施設理念…根から知を 枝葉でふれあい花さかせ 明日への種を創り育む
キャッチフレーズ…ひとりでフムフム あなたとドキドキ みんなでワイワイ



市民活動団体等によるイベントの様子



岐阜小学校での特別授業の様子

岐阜県土岐市

③7 土岐市立鶴里公民館

施設HPアドレス

<http://www.city.toki.lg.jp/docs/turusato-ko.html>

<ポイント>

- ・教育委員会と市長部局が公民館活動についての情報を共有することで、市の行政情報や公民館活動情報などが住民に円滑に周知され、豊かな住民生活につながっている。

施設概要

- 複合施設（床面積）／656.41㎡
 - ・鶴里公民館（607.61㎡）
 - ・鶴里支所（48.8㎡）
- 整備時期／昭和60年
- 構造／RC2階建（瓦葺）
- 総工費／約1億円
- 主な財源／市費・国庫補助金・県費補助金



鶴里公民館 外観

施設整備の背景

- ・地域の交流の場の設定
- ・町民の方の利便性の向上

管理・運営の体制

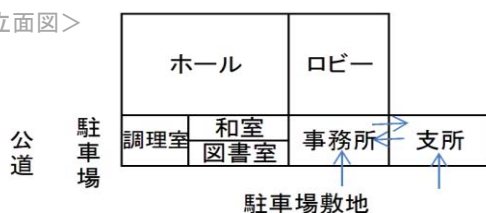
施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
公民館	9:00～21:00	教育委員会	教育委員会	2	
支所	8:30～17:15	市長部局	市長部局	2	

施設の配置・動線

<ポイント>

- ・公民館と市役所支所は、棟や入口は違うものの、公民館事務所につながっており、どちらの施設も必要に応じて利用できるようになっている。

<立面図>



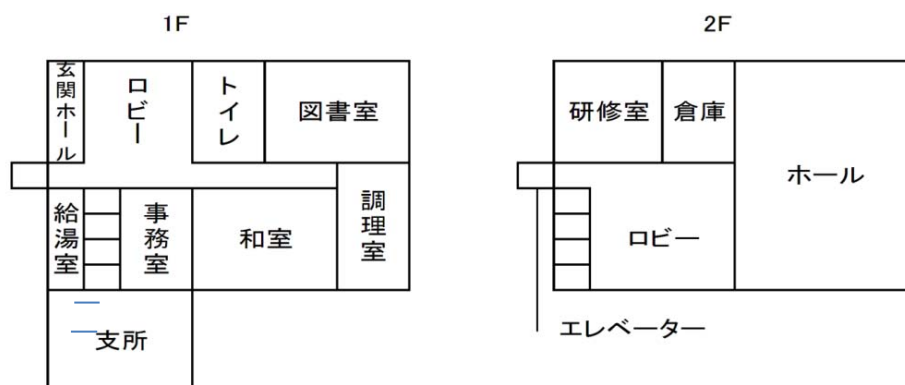
<配置図>



平面計画上の特徴

<ポイント>

- ・公民館事務所は市役所支所につながっている。公民館利用者が行政手続きを行うなど、利便性の向上が図られている。



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・ 公民館に用事がない人でも、市役所支所を利用することによって公民館活動に触れる機会が生まれ、結果として公民館利用者の幅を広げることにつながっている。
- ・ 公民館開館日・職員勤務時間と市役所支所の開所日・職員勤務時間が異なっており、お互い不在時の対応を補完し合っている。そのため、少人数の職員による住民へのより充実したサービスが可能となっている。
- ・ 公民館事業（講座やお祭りなどのイベント等）の情報を、市役所支所を通して確実に町内へ配布することができる。また、行政関連の働きかけ（選挙告知ののぼりや配布物を公民館来館者へ配布する等）を公民館利用者に行うことで、その時々情報を住民に直接伝えることができる。公民館と市役所支所がつながっていることで、行政と住民の距離が近くなっている。

【課題】

- ・ 公民館と市役所支所の業務内容は明確に区別されている。そのため、公民館職員が市役所の業務を代行することはできない。同様に、市役所支所も公民館事業に関する業務を代行することはできない。職員不在の場合の鍵の貸し出しや伝言の受け取り等、単なる取次となることが多く、住民の要望にその場で迅速に対応することは難しい。

主な特徴

	集約化・複合化による相乗効果の発揮	○	コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
	住民の意見の取り入れ・反映		民間の力の活用（PFI など）
○	管理運営の工夫		その他

【コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり】

- ・ 併設していることにより、町民の集う場所として浸透している。
- ・ 鶴里公民館運営協議会は、公民館活動決議を担当している。支所と関わりのある町の各団体の長が協議会のメンバーとなっている。そのため、公民館の活動を町全体に周知でき、また、地域住民の公民館に対する意見を得ることができる等、支所と公民館、地域と公民館のパイプとなり、支所と公民館併設によるコミュニティの拠点づくりに生かされている。
- ・ 公民館と市役所支所の間で日頃から情報共有が十分行われているため、公民館事業に対する市役所支所の理解がある。それにより、行政から公民館事業への補助が得やすい。（例：支所主導による鶴里地域資源保全管理組合から、公民館のホタルの里づくり活動のための補助がある。（カワニナの餌代））

【管理運営の工夫】

- ・ 住民が、一度の来所で支所と公民館の手続き等同時にできる。

地域住民・利用者等の声

<市役所支所利用者の声>

- ・ 公民館事業を知るきっかけとなってよかった。

<公民館利用者の声>

- ・ 公民館休館日に関連団体が施設を使用する際、市役所支所が開所していれば開錠等を行うことができるので大変助かる。

<その他の声>

- ・ どちらかが休館日でも、伝言を残すことができ、大変便利である。
- ・ 一箇所で公民館と市役所支所と同時に手続き等ができて、便利である。

愛知県海部郡飛島村

③8 飛島村すこやかセンター

施設HPアドレス

<http://www1.vill.tobishima.lg.jp/library/>

<ポイント>

- ・プールや児童館等の利用者が図書館も利用できるなど、子供からお年寄りまですべての人々がここに立ち寄り、憩い、談笑し、交流する場となっている。

施設概要

- 複合施設（床面積）／6,682.73㎡
 - ・飛島村図書館（1,028.95㎡）
- 整備時期／平成 8 年
- 構造／鉄筋コンクリート造・地上 2 階
- 総工費／30 億円
- 主な財源／一般会計
 - 社会教育施設整備補助金（国・県）



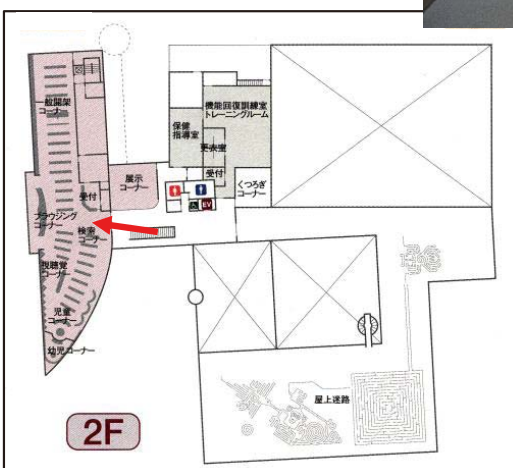
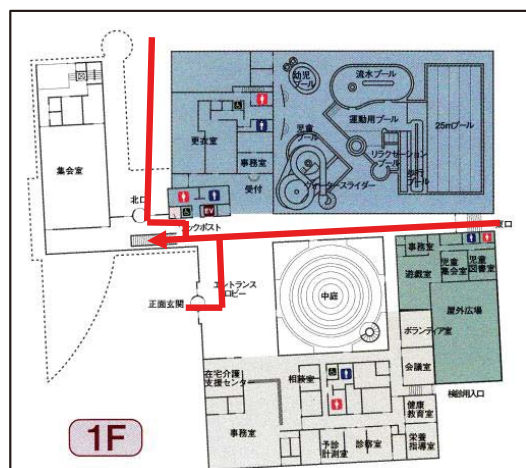
施設整備の背景

- ・住民調査の意見に応えるかたちで、「日本一の健康長寿の村づくり」の中核的拠点として建設された。
- ・子供からお年寄りまですべての人々がここに立ち寄り、憩い、談笑し、交流する場として利用できる。

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営
図書館	火～土：10:00～18:00 日・祝：9:00～17:00	教育委員会	教育委員会
温水プール・ トレーニングルーム	火～金：13:00～21:00 土：10:00～21:00 日・祝：10:00～18:00	教育委員会	教育委員会
児童館	9:00～17:00	村長部局	村長部局
保健福祉課 (保健センター)	8:30～17:15	村長部局	村長部局

施設の配置・動線 平面計画上的特徴



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・施設維持費の削減
- ・プールや児童館、トレーニングルームの利用者が図書館も利用できること

【課題】

- ・駐車場の確保

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
住民の意見の取り入れ・反映	民間の力の活用（PFI など）
管理運営の工夫	その他

【住民のにぎわいづくり】

- ・多くの本のほかに、ビデオ・DVDも借りることができ、また、視聴覚スペースも使用できる。
- ・月3～4回、ボランティアが読み聞かせを行っている。

【家庭教育力の向上・子育て世代へのサポート】

- ・3、4か月の赤ちゃんとその保護者に、絵本の読み聞かせを体験していただき、絵本を介してふれあうきっかけづくりとして、ブックスタートを行った。



【住民の意見の取り入れ・反映】

- ・親子で楽しめるコンサートを開催してほしいという要望に応え、1Fエントランスロビーを会場にして、『クラシック音楽届け隊』によるクラシック音楽コンサートを実施した。



愛知県豊橋市

③9 豊橋市大清水まなび交流館

施設HPアドレス

<http://www.city.toyohashi.lg.jp/17157.htm>

<ポイント>

- ・共有スペースを各施設に隣接するように配置し、多くの情報を提供するとともに、講座等で共用し、有効活用を図っている。

施設概要

- 複合施設（床面積）／2,306.44㎡
 - ・南稜地区市民館（1,065.94㎡）
 - ・大清水図書館（1,118.13㎡）
 - ・大清水窓口センター（122.37㎡）
- 整備時期／平成 27 年
- 構造／RC 造及び木造・地上 2 階
- 総工費／11 億円
- 主な財源／市債、一般財源、社会資本整備総合交付金、元気な地域づくり交付金



ウッドデッキ側からの施設外観

施設整備の背景

- ・既存の公民館及び窓口センターが老朽化し、建替えの必要性があった。
- ・市の南地域に図書館を新設するという構想があった。

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数	複合化前職員数
公民館	9:00～21:00	教育委員会	教育委員会	2	指定管理
図書館	9:00～21:00	教育委員会	教育委員会	12	新設
窓口センター	8:30～17:15	市長部局	市長部局	4	4

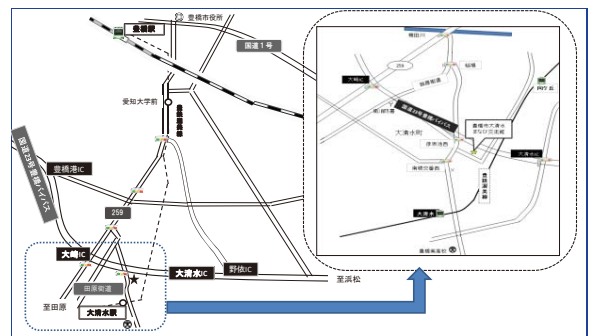
施設の配置・動線

- ・共有スペースである「地域じょうほうひろば」を3つの機能を持つエリアに隣接して配置し、多くの情報を提供している

<立面図>

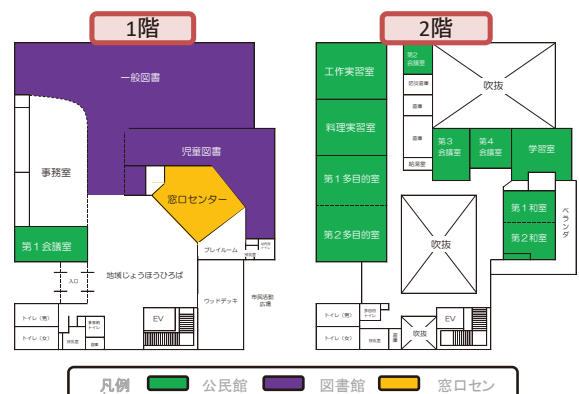


<配置図>



平面計画上の特徴

- ・公民館・図書館・窓口センターの3つの機能がある。
- ・親しみやぬくもりを感じられるように、東三河産の木材を多く使用している。



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・市民サービスの向上が図れた。
 (例) 窓口センターの手続き中に、図書館の雑誌等の閲覧をしながら待ち時間を過ごすことができる。
 窓口センターで各種証明書の交付を受けたついでに、公民館での講座の情報を得ることができる。
 公民館の講座に参加した帰りに、図書館の本を返却できる。
- ・施設内のスペースを有効活用できる。
 (例) 図書館が主催する講座で、公民館の部屋が利用できる。
 公民館の講座のチラシ配布、図書館の本の閲覧及び窓口センターの手続き待ちの場所を共用できる。

【課題】

- ・建替えのための閉館期間があり、それまでの公民館利用グループが他の施設を利用するようになり、複合施設開館後の公民館部分の利用者が減少した。
- ・公民館部分の運営を H24 までは指定管理で行っていたが、複合施設化に伴って H27 から直営に戻したことで、事業費が増加した。

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
○ 住民の意見の取り入れ・反映	民間の力の活用 (PFI など)
管理運営の工夫	その他

【相互利用・交流活動】

- ・ミナクルまつり（公民館のイベント）で、図書館協力によるリサイクル本フェアを行った。



【地域教育の拠点】

- ・地域（周辺 4 小学校区）の小学生を対象とし、土日などを活用して地域の大人が多彩な体験 活動等を提供する「土曜日の教育活動モデル 事業」を実施している。
 地域ぐるみで子供を育てる地域教育活動の 拠点となっている。



【住民からの意見反映】

- ・利用者である地域住民、地域ボランティア団体、隣接するしょうぶ園の管理団体、図書館関係者等の参加によるワークショップを 4 グループに分け 3 回開催し、そこで出た意見を実施設計に反映させた。
- ・一般市民から愛称を募集し、360 件の応募の中から「ミナクル」（地域の方々を含め、より多くのおみなさんに集まっていただきたいとの思いを込め「みんな来る」という意味で名付けられたもの）が選ばれた。

三重県

④ 三重県総合文化センター

施設HPアドレス

<http://www.center-mie.or.jp/>

<ポイント>

- ・複合施設の強みを生かし、活発な事業連携。
- ・指定管理者制度を導入し、民間のノウハウを生かして、効果的な運営の実施。

施設概要

- 複合施設（床面積）／46,305㎡
 - ・文化会館（29,415㎡）
 - ・生涯学習センター（11,763㎡）
 - うち三重県立図書館（5,322㎡）
 - ・男女共同参画センター（5,127㎡）
- 整備時期／平成6年
- 構造／SRC・RC・S造・地下1階・地上4階
- 総工費／426億円
- 主な財源／地域総合整備債、文化振興基金、新文化会館建設積立金



芸術文化と生涯学習、男女共同参画を推進する文化施設

施設整備の背景

- ・旧文化施設が老朽化していた
- ・「第9回国民文化祭・みえ94」の開催にあたって、県民から新しい文化施設建設の要望が高まった

管理・運営の体制

施設	利用時間	所管	管理・運営	職員数
文化会館	9:00～19:00	知事部局	指定管理	10
生涯学習棟	9:00～19:00	知事部局	指定管理 (図書館を除く)	13
男女共同参画棟	9:00～19:00	知事部局	指定管理	11

施設の配置・動線

<ポイント>

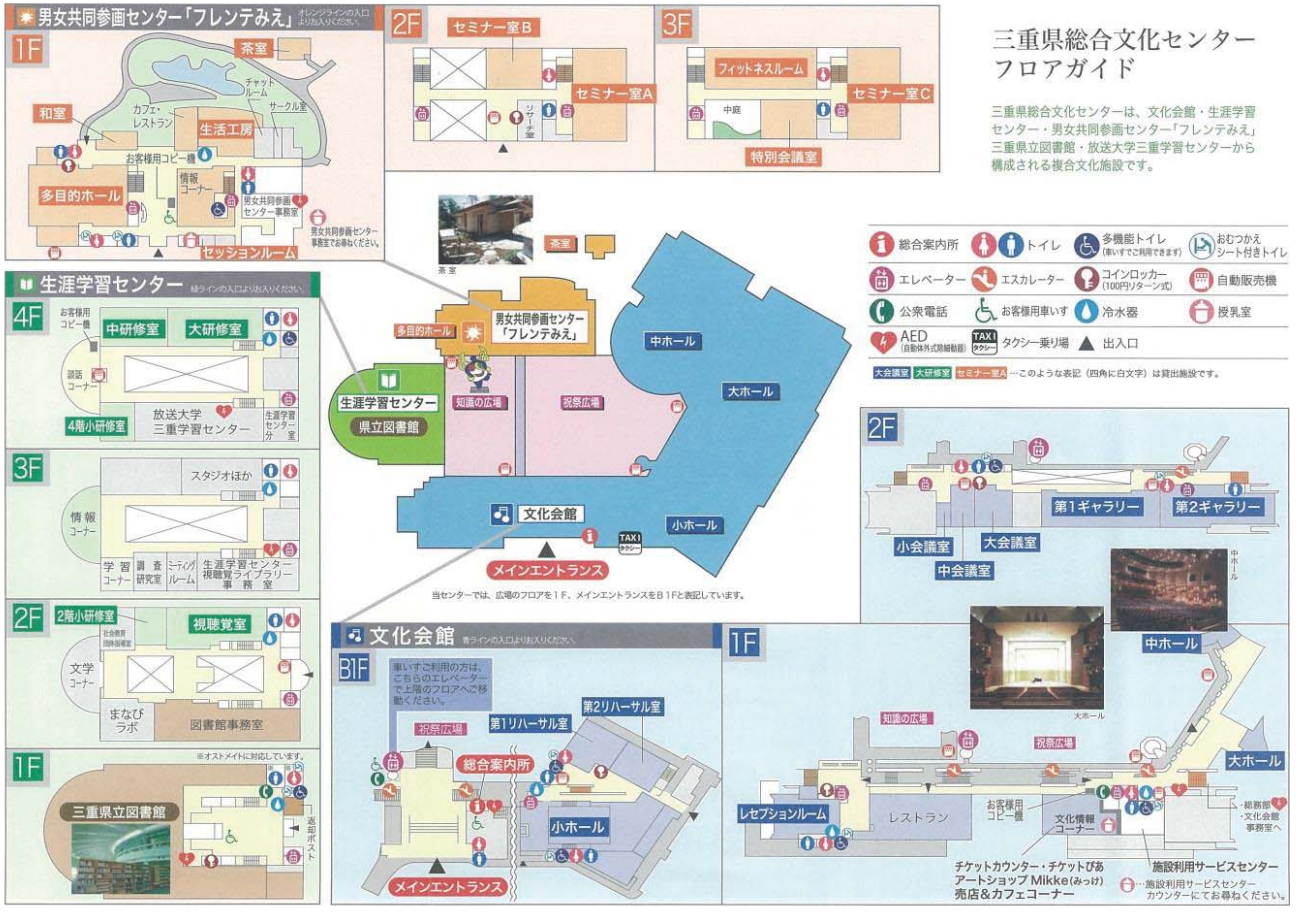
- ・複合施設のため、各棟のイメージカラーを決め、各棟の入口にイメージカラーのラインを付けるなど、わかりやすい表示をしている。



平面計画上の特徴

<ポイント>

- ・ 2つの広場を中心に、文化会館・生涯学習センター・男女共同参画センターの4棟の建物で構成され、広場の周囲にある回廊で各施設が繋がれている。



複合化・集約化による効果と課題

【効果】

- ・ 複合施設の強みを生かし、文化会館×生涯学習センター、文化会館×男女共同参画センターなどの事業連携も活発におこなっている。主な取り組みとして、文化会館の鑑賞型の公演に併せて生涯学習センターがレクチャー講座を実施したり、生涯学習センター事業として、アーティストを県内の小学校に派遣して、本物の文化芸術体験をしてもらうための事業に文化会館が有する人的ネットワークを活用し、県内の文化団体や活動家を紹介し、生涯学習センターがコーディネートをしている。他にも男女共同参画の視点を入れた演劇公演を文化会館がコーディネートして実施しており、複合施設ならではの機能を最大限発揮している。

【課題】

- ・ 厳しい財政状況が続く中、今後の大規模修繕が課題
- ・ イベントが重なった場合など、駐車場スペースが不足する

主な特徴

○ 集約化・複合化による相乗効果の発揮	○ コミュニティの拠点づくり・にぎわいづくり
○ 住民の意見の取り入れ・反映	○ 民間の力の活用 (PFI など)
○ 管理運営の工夫	○ その他

【管理運営の工夫】

- ・施設（図書館を除く）の管理運営等に平成 16 年度から指定管理者制度を導入し、（公財）三重県文化振興事業団が当初から継続して指定管理者となっている。民間のノウハウを生かして、効果的な運営を行っている。特に省エネルギー対策においては、利用するエネルギー源の選択を効率的に行い、大幅なコスト削減を行った。

【地域住民との協働】

- ・演劇がまちへ飛び出す企画として、県内各地の飲食店や寺院、商店街と協働して、「おいしくてあたらしい料理と演劇の楽しみ方 M-PAD」を開催している。おいしい料理と文学作品の朗読を掛け合わせたこのアウトリーチ企画は、アートを地域活性化に活用した事例として全国に知られている。また、アーティスト・イン・レジデンス事業を音楽・演劇分野で実施し、次世代育成にも寄与している。
- ・音楽・演劇分野で主に青少年の技量向上と健全育成に資する様々なプログラムを実施している。音楽分野では、小学 4 年生から高校 3 年生までで編成する「三重ジュニア管弦楽団」の育成事業、プロ演奏家がアマチュア演奏家を指導する「新日本フィル・演奏クリニック」を実施している。また、演劇分野では高校演劇部を対象とした「舞台創造講習会」、30 歳以下を対象とした「短編戯曲講座」「演劇人養成講座」を実施している。また、学校の垣根を越えて、発表公演をゴールとした人材育成事業として、音楽で「ミエ・ユース・ウィンド・オーケストラ」を、演劇で「ミエ・ユース・演劇ラボ」を実施している。いずれもプロ指導者を招いての定期的な稽古を経て、有料公演形式の成果発表をゴールとしている。
- ・三重県出身のアーティストによる「子どものためのアート教育プログラム」として、絵本作家やイラストレーター等によるお絵かきツアーを実施している。ツアーを実施していない時期でも親子が施設内で楽しめるように、お絵かきキットのレンタルを行っている。
- ・その他、三重県出身や地元のアーティストによるワンコインコンサートや、三重県を代表する作家たちの作品展示企画「三重の作家たち展」を実施するなど、県にゆかりのあるアーティストにも参画してもらっている

【地域住民との協働】

- ・県内の学校向けの文化体験推進事業を実施し、地元のアーティストが学校に出向いて能や和楽器、ダンス等を教える機会を提供している。
- ・その他にも三重県総合文化センターには県民が活躍できるボランティア制度があり、活動分野も主催事業の企画や取材から、園芸管理、ピアノ弾き込みなど多岐多彩である。

【障がい者雇用を推進する取組】

- ・平成 26 年 12 月に男女共同参画センター「フレンテみえ」内に、カフェ・レストラン「ステップアップカフェ C o t t i 菜（こっちな）」をオープンした。施設の改修工事費は県で負担し、カフェは県内の社会福祉法人（社会福祉法人朋友）が運営している。
- ・C o t t i 菜では、障がい者スタッフによる接客サービスの提供のほか、特別支援学校等からの実習生の受入、障がい者就労支援事業所で制作した商品の展示販売、県民や企業関係者等に向けたイベントも行っている。

【高品質なサービス提供】

- ・指定管理者において、ISO9001 品質マネジメントシステムを定着させ、住民の意見や職員提案をもとに積極的な改善を実施し、高品質なサービス提供に努めている。
- ・利用者の声を最大限に収集する仕組みも整え、アンケート等では高い満足度を得ている。利用者だけでなく、まだ利用いただいていない住民にとっても魅力ある施設づくりに努めている。

地域住民・利用者等の声

- ・来館者アンケートでは、文化複合施設や指定管理者職員の対応について肯定的な意見が見られる。
- ・施設が実施している来館者満足度（8 項目平均・4 段階評価 3 以上）では、平成 27 年度の満足度は 94.3%（26 年度：92.2%）となっている。
- ・アンケート等の意見を受けて改善を実施しており、その改善状況はホームページで公開している。